

## 第一類 OTC 医薬品『ロキソニン S 錠』購入患者の背景調査

○加藤 寿規<sup>1</sup>, 大屋 夏<sup>1</sup>, 山口 麻子<sup>1</sup>, 三輪 美砂野<sup>1</sup>, 安保 竜也<sup>1</sup>, 宮前 聡<sup>2</sup>,  
小出 博徳<sup>2</sup>(<sup>1</sup>ジップドラッグ白沢 北方薬局, <sup>2</sup>ジップドラッグ 調剤部)

【目的】急速に高齢化が進む本邦では、医療費の増加が大きな問題である。改正薬事法施行後、最大級のスイッチ OTC 薬であるロキソニン S 錠<sup>®</sup>（以下：本剤と略記）が2011年1月に第一三共ヘルスケア（株）より発売された。第1類医薬品である本剤の購入により病院を受診する回数が減少するのならば、医療費の一部削減に貢献したと考えた。そこで、今まで痛みや熱などの症状で病院への受診をされていた患者様が本剤を購入する事により病院へ受診する回数を減らせたか。を調査する事を本研究の目的とした。【方法】本剤を購入される患者様にアンケート調査を実施した。ロキソニン錠<sup>®</sup>（医療用）を服用した経験のある方のうち、「以前同様な症状（痛み・熱）が現れた際に病院へ行きロキソニン錠<sup>®</sup>を処方してもらい対応していた。」と回答をされた患者様について本剤へのスイッチがなされたこと、今報告の中では定義した。さらに、「本剤の購入により、今回の症状で病院に行く回数が減ったか否か」を調査した。併せて、症状や性別・年齢なども同時に回答いただいた。【結果】有効回答のうち50%が、今まで同様な痛み・熱の場合に病院でロキソニン錠<sup>®</sup>を投薬されていた事（本剤にスイッチ）が明らかとなり、さらに、そのうち85%（全体の42.5%）は「本剤の購入により病院に行く回数が減らせた」との結果が得られた。【考察】ロキソニン錠<sup>®</sup>の服用患者と本剤の購入患者の背景が異なっていることは、発売開始時より予測されていた事ではある。しかしながら、本剤の発売により通院回数が減らせたことは事実である。有用な OTC 薬の適正使用により今後の医療費削減が拡大される事を期待する。さらに、当調剤薬局側での患者様に円滑なスイッチを促進するため、適切な提案を続けて行きたい。